令和8年度 発生予察情報	発生予報第8号　ーいちごー	令和8年 11 月 18 日発行 宮城県病害虫防除所

ー12 月中旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:11 月 11～12 日

天候予報:仙台管区気象台 11 月 12 日発表

1　発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
うどんこ病	ー	やや多

予報の根拠

(1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/±)、発病葉率は平年よりやや高かった。(/＋)

(2)日照不足が発病に好適であり、向こう1か月の日照時間は平年より少ないと予報されている。(/＋)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	やや多

予報の根拠

(1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/±)、寄生株率は平年並であった。(/±)

(2)高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(/＋)

※　予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(＋):遅くなる要因　(±):平年並になる要因　(ー):早くなる要因　(空欄):該当せず

発　生　量・・・(＋):多くなる要因　(±):平年並になる要因　(ー):少なくなる要因　(空欄):該当せず

2　防除のポイント

(1)共通事項

・いちごの農薬使用回数は、親株からランナーを切り離した時点から収穫終了までとなる。

・施設周辺及び施設内の雑草は害虫の発生源なのでほ場周辺の除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置する。

・病害虫の薬剤抵抗性の発達を防止するため、RAC コードの異なる薬剤を組み合わせ、計画的なローテーション散布を行う。防除の際は薬液が葉裏にも付着するように、十分な薬液量 で丁寧に散布する。

・天敵製剤や訪花昆虫を利用する場合は、影響日数に注意して使用薬剤を選択する。

(2)うどんこ病

・施設内の湿度が高くなりすぎないよう換気を行うとともに、適切な温度管理、葉かき作業等と予防防除を組み合わせ、発病予防に努める。

・最初に葉裏に発生しやすいので、こまめに葉裏を観察して早期発見に努め、発生初期に防除を実施する。

(3)ハダニ類

・多発してからの防除は困難なので、ほ場をよく見回り、発生初期に防除を実施する。

・天敵を使用する場合は、ハダニ類がまだ低密度で散見され始めた時に最初の放飼を行う。ハダニ類が多発している場合は、天敵放飼前に化学合成農薬や気門封鎖剤等でハダニ類の密度を低下させておく。

・気門封鎖剤は、対象害虫にかからないと効果が得られないため、植物体全体にムラなく散布するとともに、薬害が出やすいため、あらかじめ数株に散布して薬害の状況を確認する。

・気門封鎖剤の多くは、ハダニ類の幼虫～成虫に効果を発揮し、卵には効果を示さないので、最初に気門封鎖剤を散布し、ハダニ類の卵がふ化した後に2回目以降の散布を行う(ハダニ類は 25℃条件下で卵から3日程度でふ化、その後7日程度で成虫になる)。多発時は複数回散布する。

・紫外光（UV-B）を葉の表と裏に照射することにより、うどんこ病だけではなくハダニ類の密度も抑制されるので、本ぽに UV-B 電球形蛍光灯を設置している場合は、ハダニ類の防除の一環として葉の裏にも UV-B を当てるため花房受けに光反射資材の設置を行う。

《お問い合わせ先》
宮城県病害虫防除所
〒981－0914　仙台市青葉区堤通雨宮町4－17
TEL：022－275－8982　FAX：022－276－0429
E-mail：byogai@pref.miyagi.lg.jp
★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★

宮城県病害虫防除所
トップページ

メルマガ
登録フォーム